



熊本県版

No. 262

治安維持法犠牲者

国家賠償要求同盟

熊本県本部

〒862-0954

熊本市中央区神水

1-30-7 コモン神水

☎096-381-1807

運動の基本

- 一、 治安維持法体制の復活に反対する。
 - 二、 国は戦前の治安維持法が人道に反する悪法であることを認めること。
 - 三、 国は、治安維持法の犠牲者に謝罪と賠償を行うこと。
- ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために

2024年度治安維持法 国賠同盟熊本県本部総会議案

戦争への流れを食い止め、平和・暮らしを守るため

国賠同盟をもっとつよく、大きく！

2024年7月 治安維持法 国賠同盟熊本県本部

一、今日の情勢と私たちのとりくみ

岸田自公政権による戦争への道か、立憲野党と市民による新しい政治への転換か

国賠同盟が半世紀以上にわたってかかかってきた「再び戦争と暗黒政治を許さない」という立場から見た時、今日の日本の情勢はまさに「戦争前夜」と言わざるを得ません。

集団的自衛権行使容認、敵基地攻撃能力保有の名のもとに、中国北京に達する長射程攻撃用ミサイルの開発・保有、最新鋭戦闘機の日・英・伊共同開発・第三国への輸出、全国の自衛隊基地の地下化・強靱化、南西諸島へのミサイル基地の建設、南西諸島住民12万人の本土移送計画具体化、自衛隊を米軍指揮科におく統合作戦司令部設置、そして国民の反対運動を押さえ込むための治安立法（秘密保護法、共謀罪法、盗聴法、重要土地利用規制法、マイナンバー法、

デジタル改革関連法、経済安保秘密保護法など)の完備—
—。そのために5年間で43兆円もの大軍拡と、大増税、福祉削減。

これら戦後政治の大転換・大改悪を、国会でのまともな議論もなく閣議決定、閣議決定で強行してきた自公政権は、パーティー収入で裏金を作り、私腹を肥やしているのですから許せません。この間の一連の世論調査で岸田内閣支持率、自民党支持率ともに10%台、20%台に落ち込み、「政権交代を望む」人が半数近くに上っているのも当然です。

4月に行われた3つの衆議院補欠選挙(東京15区、島根1区、長崎3区)のすべてで事実上立憲野党と市民の共同候補として闘った立憲民主党の候補者が勝利したことは、こうした自公政権の戦争政策への国民の怒りと厳しい批判を反映したものです。

岸田自公政権による戦争への道か、立憲野党と市民による平和と国民の暮らし、福祉を守る新しい政治への転換か—まさに今、歴史的岐路に立っているのではないでしようか。

共闘の一翼を担える県同盟をめざして奮闘

県同盟は、昨年の総会で「市民と立憲野党の共闘の一翼を担える強く、大きな県同盟」をめざし、同盟員を250人に、国会請願署名を5,000筆集めることを確認しま

した。

しかし同盟員拡大ではこの1年間に11人を新しく迎えられることができましたが、3人の死亡退会を含む8人の退会者があり、差し引き3人増の212人とどまりました。最大の問題は、同盟員拡大に取り組む会員が少なく、成果をあげた人が3人しかいなかったことです。

それに対して国会請願署名は、昨年の2,289筆に対して2,336筆と47筆増となり、その署名を携えて県本部理事の梅野ヨシエさんが国会請願行動(5月15日)に参加しました。

今年の署名は微増ではありませんでしたが、内容的には従来に比べて署名活動参加者が多かったのが特徴です。毎月「不屈」に折り込んだ署名用紙を活用して周りの人に訴えて3筆、5筆を集めて返信用封筒で県本部に送ってくださった会員が34人にのぼり、うち11人は2回以上、中には4回送ってくださった方もありました。

文化活動や平和活動など多彩な活動に積極的に取り組んでいる人吉球磨支部が今回初めて支部として署名活動に取り組み50筆以上を集めたのは貴重な成果でした。

また、熊本県建築労組、建交労熊本県本部、新婦人熊本県本部、熊本県民医連、熊本民商など友好、協力団体のみなさんの力に心より感謝します。

映画『わが青春つきるとも―伊藤千代子の生涯』の上映運動については熊本市、球磨郡あさぎり町（人吉球磨支部）、荒尾市での上映会のあとコロナ過もあってストップしていましたが、国賠同盟八代支部が中心になって「上映実行委員会（実行委員長は87歳の深水邦子さん）」を立ち上げ、市内の主だった民主団体の協力の下、去る5月19日、八代市のハーモニーホールで上映会を行い、132人の参加で大きな成功を収めました。

治安維持法犠牲者、先覚者を顕彰する活動

2月12日、孟宗忌（徳永直を偲ぶ会）（熊本市・12人）

2月23日、多喜二・百合子に学び語る早春文化の集

い（人吉市・32人）

3月17日、田添鉄二顕彰碑献花（熊本市・4人）

九州沖縄ブロック交流集会は10月22、23日、長崎市で開催され、全体で43人、熊本県本部から4人が参加して成功しました。次回は熊本市での開催です。

第32回全国女性交流集会在10月29、30日、愛知県の蒲郡温泉で開かれ、熊本県本部から内田順子さんが参加しました。

会費100%納入を基礎に、機関体制強化のとりくみ

ここ数年の会員の拡大により県同盟の財政基盤が強化され、全国的な催しへの代表派遣や県本部役員の交通費実費支給や宣伝物作成も無理なくできるようになりました。また、中央本部への未納も解消しました。

しかし、前回総会で指摘された県本部の財政実務体制の確立、強化はまだ再建途上であり、県版「不屈」の毎月定期発行にこの間若干乱れが生じています。県本部体制の確立強化は依然として喫緊の課題です。

二、今年度の活動方針

①国会請願署名活動

今年こそ5,000筆達成を目指します。今年も会員一人一人が「一年間で20筆」の署名を集めることを目標に奮闘しましょう。この方針にもとづいて、昨年は34人の会員が自覚的に署名活動に取り組み、一定の前進を勝ち取ることができました。しかし会員比ではまだ16%にとどまっております。まず、自分自身と家族の署名から始めましょう。また、友好協力団体への協力をお願いを年内早くから取り組むとともに、新しい団体への働きかけも強めます。

毎年強調していることですが、国賠同盟の署名活動は、県民一人ひとりと向き合って、治安維持法が猛威をふるっ

た戦前の軍国日本がいかにかにひどい時代であったかを語り、いまその治安維持法が形を変えて復活させられ、戦争に向かつて突っ走っている現実を語り、岸田自公政治をやめさせる活動です。

敗戦後79年を経過し、国民の圧倒的多数が戦後生まれで、「戦争を知らない世代」が主流になった今日、私たち治安維持法同盟の存在と役割はますます重要になっています。一人ひとりの会員が常に黄色い署名用紙をもって、まわりの人に訴え、署名を地道に集めましょう。

② 治安維持法犠牲者、先覚者を顕彰する活動

「改訂『地下水、その噴き出するを願って―熊本の治安維持法犠牲者の名簿と足跡』の普及にひきつづきとりくみます。

一昨年12月(熊本市中心)と、23年6月(菊池、山鹿方面)の「顕彰ツアー」は大好評でした。

今年もぜひ、いろいろ工夫しながら治安維持法犠牲者をはじめ大逆事件犠牲者等先覚者を顕彰する「顕彰ツアー」を計画したいと思います。

③ 会員拡大の新たな目標と支部結成

(1) 昨年の総会で、次回総会までに250人に到達することを確認しました。

この1年間の実績は17人拡大の8人減で、差し引き9

人の増、現勢は史上最高の218人となりました。

困難な情勢の下で9人とは言え増勢、しかも史上最高の峰を築いて今総会を迎えることができたことは貴重な成果です。

同時に、自ら掲げた目標を達成できなかったことについては真剣な検討が必要です。死亡や入院、施設入所などによる家族からの退会申し出、県外転出など高齢化を反映した退会が多かったこともありましたが、問題は拡大数自体が少なかったこと、総会確認にもかかわらず「会員拡大」に取り組む会員がごく少数にとどまったことにあります。いろいろ工夫し、努力しながらも会員拡大に結び付かなかった人もおり一概には言えませんが、会員拡大で成果を上げた会員が全県でわずか数人しかいなかった事実を深刻に受け止める必要があるでしょう。

アメリカの世界戦略に深く組み込まれ、急速に戦争へと突き進んでいる岸田自公政権の暴走政治を阻止するためには私たち反戦、平和勢力がもっともつと力をつけなければなりません。

新しいテキスト『治安維持法とは何か』も大いに活用しながら「なぜ治安維持法同盟を強く大きく拡大しなければならぬのか」の学習を強め、同盟員拡大に足を踏み出しましょう。

県同盟の全国大会時現勢の推移

結成時	(1979年)	90人	
30回大会	(2001年)	110	
31回	(2003年)	107	-3
32回	(2005年)	105	-2
33回	(2007年)	105	
34回	(2009年)	105	
35回	(2011年)	90	-15
36回	(2013年)	90	
37回	(2015年)	90	
	2016年7月 人吉球磨支部結成		
38回	(2017年)	102	+12
39回	(2019年)	172	+70
40回	(2022年)	209	+37

熊本県の国賠同盟は1979年、治安維持法犠牲者で激しい拷問の上、死刑を求刑されながら敗戦によってかろう

今度こそ、来年の総会までに250人に到達することをめざしましょう。

(2)県同盟の今日の前進は2016年7月の「人吉球磨支部結成」を契機に始まりました。

じて死刑を免れた西里竜夫さんら90数人で結成されました。結成総会で西里さんは「今年中に会員(拡大)200人を目標とする」ことを提案、一週間後の第一回役員会では「会員拡大は、申込書を全会員に送り、『一人が一人の新会員を!』を合言葉に200名を早急に達成する」との意気高い方針を掲げて出発しました。

しかし創立者たちの意気高い気概はともに受けつがれず、その後の県同盟の活動は国会請願署名と犠牲者の顕彰活動が中心になり、最も困難な会員拡大は、若干の増減はあったものの事実上、自然成長に任されてきたようです。結成から30数年を経た2010年代になっても会員数は依然として「90人」で、当時を知る人の話では、「実体のない幽霊会員も多かった」そうです。

そうした状況を変えたのが、2016年7月の人吉球磨支部の結成と、会員拡大の意識的追及でした。人吉市での九州沖繩ブロック交流会(2016年10月)の開催など人吉球磨支部の目覚ましい活動が全県を励まし、その後、八代支部(2018年)、天草支部(2021年)とつづき順調に前進してきましたが、コロナ禍もあってその後が続いていません。

今年こそぜひ、菊池(菊池山鹿)方面をはじめ新支部を結成しましょう。

(3)この間、最も多くの会員が居住する熊本市における支部結成を方針として掲げてきましたが依然として着手できていません。熊本市全体を一つの支部にするのは支部指導部の構成を考えても現実的ではありませんので、全国の教訓に学びながら、できることから支部結成に着手したいと思います。映画『伊藤千代子の生涯』上映運動とも連携して条件のある地域での支部結成にとりくみます。

④国政選挙で「市民と立憲野党の共闘」勢力の勝利に貢献します

来るべき国政選挙では、「市民と立憲野党」の統一候補および国賠同盟の目的を支持し協力してくれる政党と候補者が一人でも多く当選できるように全力を尽くします。

⑤会費の100%納入をめざします
 会員のみなさんのご協力で2023年度会費の納入率は〇〇%となりました。ひきつづき100%納入をめざします。

⑥県本部および支部体制の強化
 県本部体制の充実強化では、ひきつづき財政実務の確立を図るとともに、「不屈」県版の定期発行に努めます。

また、役員体制強化にあたっては、

*ジェンダー平等の促進（女性役員の増員）

*世代継承、若返りの促進

*地域的バランスの確保

を念頭に、新しい人材の養成、発掘につとめます。

支部体制の整備、強化では、①支部役員会の定期開催、②支部会議又は支部総会の開催、③支部としての会費集め、④「支部ニュース」の発行などができるよう努力します。

⑦映画『伊藤千代子の生涯』第3次上映運動

全国的には映画『わが青春つきるとも』伊藤千代子の生涯』の上映運動は第3次にはいり、10万円の上映債券が無くても上映できる小規模な地域での連続上映が始まっています。県本部所有のプロジェクターでの公民館等での上映も可能となっていますので、規模や採算を気にせずどんどん上映会を計画しましょう。県本部としては天草市、菊池市、山鹿市、水俣市、阿蘇市、熊本市の2回目、3回目などに取り組みたいと考えています。

⑧全国女性交流集会

第33回全国女性交流集会が今年も愛知県蒲郡温泉で10月に開催されます。県同盟からは長く代表を出せていませんでしたが、22年の第31回（梅野ヨシエさん）、23年の第32回（内田順子さん）と続けて代表が参加し、非常に感銘を受けて帰ってきました。今年の第33回にもぜひ代表を派遣したいと思しますので希望者は申し出て下さい。

⑨九州沖縄ブロック交流集会

今年の九州沖縄ブロック交流集会は熊本県本部の担当です。

昨年と全く同じ10月22、23日に、熊本市で開催します。

1日目は記念講演と支部活動の交流、および夜は懇親会。2日目は大逆事件及び治安維持法犠牲者の記念碑やお墓などゆかりの地の顕彰ツアーを予定しています。参加費は宿泊代、懇親会費込みで1人12,000円ですが、県本部から1人3,000円を補助しますので、各人の負担は9,000円となります。多くの方の参加をお願いします。

- 日時 2024年10月22・23日(火・水)
- 会場 熊本市内(7月1日に決定予定)
- 参加費 12,000円(3,000円補助します)
- 1日目 ①記念講演(講師未定) ②支部活動交流
- ③親睦交流会
- 2日目 大逆事件および治安維持法犠牲者顕彰碑などゆかりの地巡り

ごあんない

治安維持法同盟熊本県本部総会を左記のとおり開催します。会員の皆様、お忙しいことと存じますが参加をお願いします。

記

日時 7月14日(日)

午後2時より

(終了は4時半予定)

会場 くまもと県民交流館

パレア 会議室4(9階)

※ 記念講演の講師および

内容は、交渉中のため
決まり次第チラシ等で
ご案内いたします。



国会請願行動に参加して

梅野 ヨシエ

2024年5月15日、治安維持法犠牲者に国家賠償法の制定を求める国会請願行動に参加しました。署名数は全国で119560筆、熊本県は2336筆でした。参加者は全国から約200名でしたが、九州沖縄ブロックからは熊本・沖縄各1、長崎2名の参加となりました。そんな中で埼玉県の方は20名の参加です！九州組の4人は全員初めての参加で埼玉の方が2人応援してくださいました。ありがたかったです。

請願行動には102歳の菱谷良一さんも北海道からはるるるに参加しました。「私は治安維持法の犠牲者ですが、私も治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟のれっきとした会員です。今日も参加しました」と元気にあいさつし、拍手で迎えられました。集会には国会議員の宮本岳志・山添拓が連帯のあいさつに駆け付けました。

訪問した国会議員は沖縄をはじめ九州選出の議員です。参議院では仁比聡平・伊波洋一・高良鉄美の3議員、衆議院では赤嶺政賢・渡辺創の2議員、計5名の議員です。赤嶺政賢さんには直接お会いでき、話が弾みました。今日5月15日は沖縄復帰の日でもありました。



赤嶺議員は「沖縄の民意は憲法9条を活かした平和外交です。今日5・15はいくさのない日本を闘いとる決意を示す時ですよ」と語られました。

参加して残念に思ったのは、請願署名を受け入れてくれる熊本選出の国会議員が皆無だったことです。署名数アップ、会員増とともに革新議員の地元選出を目指さねばと強く思った次第です。

それと成果もありました。沖縄からの参加者と縁を強めることができました。2022女性交流会での再会の再会です。10月の九州沖縄ブロック交流会での再会を約束しました。もう一つの成果は、この日の歩行12413歩です。体力に自信がわきました。

世界各国では、カナダ・アメリカ・ドイツ・イタリア・韓国など謝罪と年金等の金銭的補償が行われています。日本政府は侵略戦争を認め、すべての犠牲者に謝罪と賠償を一日も早く行うべきです。